

Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

CONTENTS

聴く『農業経営者』ご案内

第20回定例セミナー報告

第21回定例セミナー報告

11～12月のイベントご案内

10月の活動・参加申込書

Vol.14 2008年10月1日発行

■発行・編集／株農業技術通信社『農業経営者』読者の会事務局（担当：長谷川）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

セミナー音声の聴講方法

セミナー音声は、以下の手順にそってダウンロードしてください。

1



セミナー音声配信

<http://www.farm-biz.co.jp/semi/>

本誌ホームページにアクセスして「セミナー音声配信」のバナーをクリックしてください。

農業経営者

検索

2



全音声

ダウンロード

講師陣リストから関心あるセミナーを選んでください。「全音声ダウンロード」をクリックすると講演のすべてがダウンロード※できます。本紙定期購読者はすべて無料です。

※全音声のダウンロードにはパスワードが必要です。customer@farm-biz.co.jpへ、名前と電話番号をご記入の上、メールしてください。

試聴

「試聴」を押すと、約3分間音声を試し聴きできます。

聴く『農業経営者』ご案内
これまでの読者の会定例セミナーは、
いつでも本誌ホームページで聴講できます!!

読者の会定例セミナーは、10月1日現在までに22回の開催を重ね、延べ800人の読者に参加頂いた。昨年11月からは、ホームページから無料で聴講できる音声配信サービスを開始した。今回は本誌読者に取材して、音声配信サービスの活用方法を聞いた。

根岸生産工房（埼玉県深谷市）の根岸知弘氏の場合、そもそも農業界の成功者とは何だ？ フロントランナー達は、どういう経緯でどういう考え方をしている人々か？ というのが興味の源泉。本誌やメディアに登場する農業経営者の、活字だけではわからない人物像が音声や話ぶりから掴める。収穫や防除などの単純作業中に、とりあえず誰でも聴いてみるという。「最近、すごいと思ったのは田中正保氏。時代がようやく彼に追いついてきたと思う」

また、森田農場（北海道清水町）の森田哲也氏は「農業界には井戸端会議のような情報が多い。経営者には戦略のベクトルを決めるタイムリーな情報源が必要。それが地元にはない」という。作業中でも耳と頭の一部は使える。セミナー音声を聴くことで、経営戦略を考える時間に変えている。「雑誌のみの価格と考えたら、『農業経営者』は割高。でも、このセミナー音声込みの価格と考えれば十分納得できる」

音声ダウンロードをまだ利用されていない方は、ぜひ活用して頂きたい。

◎パスワードはFAXでも取得できます。この会報の申込書をご利用ください。→

第20回定例セミナー報告

オカルト農法探検隊への招待

科学的に解明できない農法教えます！

農援隊代表 後藤芳宏氏

祭祀儀礼のパワーを

読者の協力を得て実験しました

日本に近代科学にもとづく農学が入ってきたのは最近の話。それ以前から農業は脈々と営まれ、日本には長大な農に関する経験知がある。それは日本神話『古事記』『日本書記』の世界であり、同時に神々の力を借りる祭祀儀礼と結びついてきた……。

8月29日の定例セミナーは、本誌で「オカルト農法探検隊」連載中の後藤芳宏氏に講演をお願いした。同氏は農業コンサルタントだが、生産現場で出合った近代科学では説明できない不思議を解明すべく、オカルト農法研究を手がけている。実は現代でも農に関わる祭祀儀礼を、宮中の神祀官が継承している。後藤氏は知己を得た神祀官にお願いし、また本誌読者の協力を得てこれらの術の圃場実験を実現した。

まず基礎編として陶器製の壺に炭をいれて水田の四隅に埋める術。炭を埋めると土壌中のマイナスイオンが多くなるといえるが、果たして1週間後には

生育が変わってきたという。続いて虫除けの術、収穫時に雨を降らせない術、コンバインに小動物を巻き込まないための地鎮祭、さらには抑草の術……と実験報告が続いた。

第21回定例セミナー報告

遺伝子組み換え作物のリスク情報管理

消費者の意識をいかに変えるか

毎日新聞編集委員 小島正美氏

日本はこのままでいいのか
消費者団体の方も悩んでいます

9月4日の定例セミナーは、毎日新聞社 小島正美氏に講師をお願いした。

生活家庭部で環境や健康、食の問題などを担当する同氏に、遺伝子組み換え（以下GM）作物のリスク情報をどう伝えるか、米国などの取材エピソード



オカルト農法はテレビのリモコン。しくみはわからなくても、使い方がわかればいい、と実験を説明する後藤氏。

この神祀官によればトヨタやキャンシンのような一流企業でも祭祀儀礼は意外ときちんとやっているらしい。現在、後藤氏と協力してもっと手軽に術を農業にいかすべく実用化を進めている。

を交えてお話し頂いた。

「90年代頃は私もGM作物について懐疑的でした。ただ当時から不思議だったのは、なぜGM作物の面積が増えているのか？ という疑問でした」

02年にGM作物の栽培現場を視察す

るツアーにたまたま参加した同氏は、米国の生産者にその疑問を取材する。「農家がメリットとして挙げるのは、農薬の使用量が減る、収量が増える、収入が増える、手間が減るということです。そうやって話を聞くうちに、現場を見ずに記事を書いていたことを痛感しました」

では問題はないのか。花粉の交雑がよく指摘されるが、栽培の現場はあまり気にしていなかった。米国農務省(FDA)が承認したから大丈夫というほどの意識なのだ。一方FDA側は、野外交雑については調査していない。その部分については、日本政府のように神経が行き届いてない様子だった。

その後、話題はGM作物の最前線としてモンサントが今開発している品種について触れ、さらに栽培に反対する消費者団体の動向へと続いた。実際、デュポンやモンサントにとって、日本は種子市場としての魅力はない。とはいえ栽培はしないが家畜飼料や油脂原料としてGM作物を輸入してくる、ありがたい存在だ。しかも民間では開発しないのだから、むしろ消費者団体に感謝しているくらいだという。

「このままGM作物の栽培や開発を反対し続けていいのか？ というと、消費者団体の方も悩んでいます。未来への選択肢は多いほうがいいはず。問題は誰がやるのかということでしょう」

2008年11～12月 定例セミナー・シンポジウムのご案内

第25回

11月7日(金) 16:00～18:00

会場：(株)農業技術通信社内セミナールーム

日本の農林水産物を愛するお客様のために ～1200張の『緑提灯』が灯るまで～

「日本産食材の使用量が50%を超えるお店を『緑提灯』でアピールしよう！」という緑提灯運動は、2005年春に北海道小樽の1号店に始まった。その後、参加店舗は全国に広がり、現在は1200店舗を越えている。ユーモアのある表現と方法で人々を巻き込んだ運動の仕掛け人、丸山清明氏が1200張の緑提灯が灯るまでを語る。

(独)農研機構理事 中央農業総合研究センター所長

丸山清明氏 (まるやま・きよあき)



PROFILE

1947年生まれ。69年東京大学農学部卒。74年同大学農学部大学院修了(農学博士)。同年農林水産省北陸農業試験場。97年農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発課長。以後、(独)農研機構作物研究所長、同北海道農業研究センター所長、農林水産技術会議事務局研究総務官等を歴任。2006年から現職。

第26回

11月28日(金) 16:00～18:00

会場：(株)農業技術通信社内セミナールーム

畑作の技術で水稻を！ 乾田直播への挑戦

稲作経営を抜本から変える革新技術として注目される乾田直播。海外マーケットへの進出さえも握るこの技術は、稲作経営に携わる者にとって、無視できない存在になりつつある。グレーンドリルを用いた播種体系により、コスト半減を目指した体系化試験を昨年より実施している岩手県花巻市の盛川周祐氏が、今年の結果を報告する。

(有)盛川農場 代表

盛川周祐氏 (もりかわ・しゅうすけ)



PROFILE

1951年岩手県生まれ。弘前大学理学部卒業後、就農。当初は稲作がメインだったが、20年ほど前から転作田を利用した畑作にシフト。作目は面積順に小麦、大豆、水稻、ジャガイモ、ハトムギなど合計50ha。水稻乾田直播は今年4年目で面積は3ha。本誌「大規模輪作営農のための乾田直播技術」に好評連載中。

シンポジウムのお知らせ

2008年12月中旬開催予定

世界を虜にする ニッポン農業

～先駆者達から学ぶ、農産物輸出と
Made by Japaneseの戦略～



ウクライナで大豆栽培に取り組む木村慎一さん一行 (08年4月)

海外での寿司店あるいは和食レストランの流行は皆様もご存知の通りです。本誌では、それを日本農業と農業経営者にとっての大きなビジネスチャンスととらえ、農産物の輸出にとどまらず、Made by Japaneseのブランドを生かせる海外生産について情報提供と視察を行ってまいりました。

将来の国内食料需要を賄うための安定調達を実現するためには、世界の農業地帯に日本資本の投下を行なうだけでなく、日本の農業経営者みずからが現地の人々との共同の事業に取り組むことでこそ、より信頼度の高い食料調達が可能になるのではないのでしょうか。

08年12月中旬、農産物輸出とMade by Japaneseを実践してきた農業経営者を発表者に迎えてシンポジウムを開催します。世界というステージで、日本農業や日本人が持っている可能性を自覚し、我々に何ができるのか、何が不足しているのか語ります。ご関心のある方は次ページ申込書で資料請求をお申込み下さい。

第23回

10月10日(金) 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

生産調整の廃止と直接支払いの導入が日本農業を再生する

農水省OBが、あるべき農政を喝破! まず生産調整の撤廃だ。コメの生産量を増やし、米価を下げてコメ市場の拡大を図る。生産増とコスト減を実現すれば、コメ粉、飼料米、工業原料など国産米の需要は拡大できる。次に、主業農家を育成する構造改革。一定規模以上の農家には面積に応じた直接支払いを交付して、農地を副業的農家から主業農家に集める!

(独)経済産業研究所 上席研究員

山下一仁氏 (やました・かずひと)



PROFILE

東京大学卒業、同博士(農学)。1977年農林省入省。ミシガン大学大学院を経て、02年国際部参事官、OECD農業委員会副議長を最後に退官。03年経済産業研究所上席研究員に着任、現在に至る。主な研究分野は、食料・農業政策、中山間地域問題、WTO農業交渉、貿易と環境、貿易と食品の安全性など。

第24回

10月24日(金) 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

誰が「比内地鶏」を創るのか?

～地域ブランドのあるべき姿を問う～

昨年秋、食肉加工業者による比内地鶏の偽装事件が告発された。秋田県は急遽、ブランド認証制度の準備を進めたが、7割近い顧客に「比内地鶏」として選ばれてきた黎明舎の雛と秋田高原フードの比内地鶏は、病気リスクを減らすためのケージ飼いを理由に、そこから除外されようとしている。同社の大塚智哉氏が、今、地域ブランドのあるべき姿を問う。

(有)秋田高原フード 営業担当

大塚智哉氏 (おおつか・ともや)



PROFILE

東海大学卒業後、物流会社に入社。2002年(有)秋田高原フードに転職。妻の智子氏は同社創業者である故・佐藤黎明氏の長女。以来、義母である佐藤信子社長、妻、14人の従業員とともに、比内地鶏の育成事業に取り組む。同社では営業として各地を飛び回り、同時に県との交渉も担っている。

◎セミナー参加申込

■参加を希望する項目に☒して、必要事項をご記入下さい。

月刊『農業経営者』
定期購読者 **無料**

〈セミナー〉

〈セミナー終了後の懇親会〉

- | | |
|--|---|
| ☐ 10/10 (金) 山下一仁氏 (16:00~18:00) | ☐ 参加 (18:00~20:00) |
| ☐ 10/24 (金) 大塚智哉氏 (16:00~18:00) | ☐ 参加 (18:00~20:00) |
| ☐ 11/7 (金) 丸山清明氏 (16:00~18:00) | ☐ 参加 (18:00~20:00) |
| ☐ 11/28 (金) 盛川周祐氏 (16:00~18:00) | ☐ 参加 (18:00~20:00) |

※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者 5,000 円です。

※セミナー終了後には、懇親会(会費 1,000 円)を予定しております。

◎定期購読申込

■いずれかに☒して、必要事項をご記入下さい。

- ☐ 1年(12冊) **18,000 円**
送料サービス!
- ☐ 2年(24冊) **33,000 円**
お得な3,000円割引!
- ☐ 3年(36冊) **45,000 円**
お得な9,000円割引!

※本誌セミナー(年22回)参加料込(一般5,000円/回)

※本誌セミナー全音声ダウンロード(年22回)込
他、8大特典は本誌p96参照

◎シンポジウム資料請求

☐ 世界を虜にするニッポン農業 ~先駆者達から学ぶ、農産物輸出と Made by Japaneseの戦略~ (12月中旬開催予定)

◎共同出展資料請求

☐ FODEX JAPAN2009 (2009/3/3~3/6開催)

お名前

会社名
農場名

TEL

E-mail

FAX

☐ セミナー音声パスワード希望

ご住所 〒

お申込方法 FAX 0120-410-359 まで送信してください。

(『農業経営者』HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます)

お問合せ/ (株) 農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。